

アマチュア 『疑心暗鬼』

プロとアマチュアの違いは、
自然を見方に付けたか、敵にまわしたか。

バリューゴルフ
VALUE GOLF
www.valuegolf.co.jp

2024年を振り返って

今シーズンもさまざまに印象深い年であった。まずは、米男子ゴルフツアーで松山英樹が8月の「フェデックスセントジュード選手権」で勝利し、通算10勝目を手にした。また、タイガーウッズ以来といてもいいが、スコッティ・シエフラーがマスターズで優勝、米国と欧州のツアーで通算13勝を挙げており、そのうちメジャー大会では2勝を記録している。今年のパリ五輪では金メダルを獲得し、圧倒的な実力を発揮した。シエフラーに関しては、来年も再来年も大きな怪我をしなければ、一つの時代を築くような底知れない実力を感じる。

一方で、全米女子ツアーにおいては、渋野日向子、古江彩佳、小祝さくら、山下美夢有など、日本の若手選手が続々と参戦し、いよいよ世界で知名度を上げるプロが数年以内に何人かは登場するであろう。特に古江彩佳は、アムンディ・エビアン選手権で勝利した。これにより、なんとメジャーのうちの2大会は日本人が勝利したことになる。また、女子ゴルフ界をリードする選手として、年間7勝を挙げた竹田麗央が今季通算賞金2億円を突破した。まだ21歳という若さを考えると宮里藍以来のスター選手として、久しぶりにマスコミを賑わせるであろう。身長166cmから繰り出される男子プロ並みのドライバースhootは、他の女子プロより圧倒的に試合を有利に運べるし、加えて小技もうまい。さらに、心臓も強い。彼女も世界のメジャーを狙う逸材として、いつ勝ってもおかしくない。

男子ツアーに関しては、女子ツアーと比べても試合数が減少し、寂しい限りである。松山英樹の世界での活躍を見る限り、日本ツアーの実力とスケールの小ささがどうしてもスポンサーやファンにとってはいまひとつ商品価値が見劣りしてしまうのである。皆さんもそう感じるであろうが、ロサンゼルス・ドジャースの大谷翔平の活躍を見ると、日本のプロ野球に関してはそのサイズが小さく見える。競技のスピードや運営の方法も合理的で日本の野球が田舎臭く感じるのには私だけではないだろう。

今世紀に入り、スポーツのグローバル化は、大きく進化した。以前からあったサッカーのワールドカップやオリンピックでの日本選手での活躍とは違った意味で、いわゆる世界の舞台でも見劣りしない個人の能力が圧倒的に評価される時代が来たのだ。ビジネス面においては、なんとも動いている経済規模が数十倍、数百倍だ。今後の日本のスポーツ市場の拡大には、国を挙げての支援体制が必要になるだろう。



戸張 捷 Sho Tobari

1945年、東京生まれ。高校からゴルフを始め、3年で全日本ジュニア3位、大学4年で日本アマ9位。住友ゴム工業(現SRIスポーツ)に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデューサー、コンサルティングなども手掛けている。